VASCODA（ヴァスコーダ）：学術情報のためのポータルサイト、情報の発見

ウーヴェ・ローゼマン　著・述
岩手令子・金城まりえ　訳

Vascoda: Entdecke Information
Ein Portal fuer Wissenschaftliche Ressourcen

Uwe ROSEMANN
Reiko IWATE, Marie KINJO (tra.)

はじめに

みなさまこんにちは。本日初めて京都で講演をする機会に恵まれたことを大変うれしく思い、またこのような機会を設けてくださった京都大学の川崎先生に感謝を述べたいと思います。さて、今日は学術情報のための画期的な新しいポータルであるVascoda（ヴァスコーダ：http://www.vascoda.de/index.html）についてお話したいと思います。

Vascodaとは、自然科学、工学、医学から精神科学および社会学にいたるあらゆる学術分野のための中心的な出発点となるポータルです。Vascodaという名称ですが、誰にでも簡単に覚えられて読みやすく、さまざまな言語においても中立的で、特定のネガティブな意味のない名称、さらに版権などの問題のない名前を、名前をつけるのが専門の会社に依頼して考えてもらいました。この名称からヴァスゴ・ダ・ガマ（Vasco da Gama）を思い浮かべる方もいるかと思いますが、名称自体に確たる意味はないのです。覚えやすい名前ですから、皆さんどうぞ覚えてください。Vascodaは現在まだ準備中であり、今年の8月にベルリンで開かれる国際図書館連盟（IFLA）会議において正式に発表され、インターネットに登場することになっています。今日ご来場の皆様の中で8月にベルリンへいらっしゃる予定の方は、どうぞVascodaのお披露目式へおいでください。コーヒーとお菓子を用意してお待ちしております。

1．Vascodaとは

この新しいポータルでは、はじめの画面では学際的な検索が行なわれ、検索が進み個々の提供サービスになると複合的なブラウジングと快適なナビゲーションを提供します。Vascodaは、あらゆる種類の資料、すなわちデジタル資料、デジタル化された資料、そして印刷資料へのアクセスを可能にします。利用者は、どのような形態の資料であろうと、自分が必要とする情報を得ることができるのです。このポータルサイトの利用は無料で、多くの資料へのアクセスも無料ですが、Vascodaに協力している機関の提供しているサービスの中には有料のものもあります。それについては後ほど触れたいと思います。

Vascodaでは、フルテキスト、リンク集、書誌やその他のデータバンク、専門的な検索エンジンなどへのアクセスも提供しています。このポータルは同時に、一つのドイツ・デジタル図書館の中核を形成しています。ドイツ・デジタル図書館は、質の高い情報を求めているすべての人びとにたいして、将来的にあらゆる検索のための中心的なポータルを提供することになるでしょう。

Vascodaの主たる目標は、質の高い情報へのアクセスを容易にすることです。例えばGoogleのような検索エンジンで検索した場合、検索結果としてヒットするものには学問的な基準を満たしている情報もありますが、無数の使い物にならないリンクなども同時にヒットしてしまいます。現在普及している数々の検索エンジンがその専門的な関連性や品質に関係なく、ウェブサイトを見出しとしてあげているのにたいして、Vascodaのポータルサイトの協力機関は、質の高い情報のみを見出しとしてあげており、Vascodaは質の高い情報へのアクセスのみを認めているのです。そのためにVascodaは独自に各専門分野の専門家を招集し、専門分野別に委員会を開いて、Vascodaが提供する情報源の質を定期的に調査しています。それゆえ利用者は、信頼できる情報源だけを検索できるという安心感を得るのです。

これまで述べてきたように、Vascodaはインターネット上の情報のみならず、あらゆる種類の資料、そして研究に関連している情報へのアクセスをも可能にしていますが、いままで人目につかないサイトの一部であった多くの資料へのアクセスをも可能にしました。いわゆる人目につかないサイトに含まれる書誌情報（Metadate：メタデータ）や重要な資料は、原則的にはインターネットで検索できるものの、現在広く使われている検索エンジンの見出しには出てこないので、インターネットでの検索経験が浅い検索者にとっては知られないままになっていたものです。このような人目につかないインターネットのサイトを目に見えるようにするには、とりわけオンライン閲覧目録（OPAC)、データバンク、そしてその他の書誌情報を、Vascodaに加盟している協力機関の検索ツールの中に組み込むことで実現されます。いくつかの例外を除いて、検索エンジンとしてある蔵書カタログやデータバンクの中身を通常みることはできませんが、Vascodaでは、これらの内容もみることができるようになっています。それにまだデジタル化されていない資料であってもVascodaを介した検索で、それらの資料が図書や印刷資料として蔵書カタログに登録されているか否かを知ることができます。必要な印刷資料を入手するには、館外（遠方）貸出を申し込むか、資料のコピー発送をその資料の所蔵館に注文することができます。

2．Vascodaを後援している助成機関及び諸団体

Vascodaはドイツ連邦教育研究省（BMBF: Bundesministerium für Bildung und Forschung）とドイツ学術振興会（DFG: Deutsche Forschungsgemeinschaft）の助成を受けています。連邦教育研究省とドイツ学術振興会は、複数の競合するポータルサイトを支援するのではなく、共同作業を通して、一つの共有のポータルサイトを実現すべく協力してその構築作業にあたっています。

さらに、30を越えるドイツの機関が世界中にある提携機関とともに、利用者に学術情報を提

供するための真のワン・ストップ・ショップ（One-Stop-Shop）を作るべく協力しています。このプロジェクトに参加している協力機関は、図書館、専門情報センターおよびその他の質の高い学術情報を提供している機関です。これらの機関が協力することで、探しているフルテキストの検索とそれへのアクセスとを結びつけることが可能になります。さらにリンク集と短い解説とがその情報に関連して提供されている他の資料へのナビゲーションを容易にします。このポータルサイトの主な利用者となるのは、高等教育機関、学者をはじめ、大企業、産業界からの照会者であり、質の高い学術情報に関心を寄せているすべての人びとです。

3．Vascodaの協力機関

Vascodaで提供される最初のリリースは、仮想専門図書館、電子雑誌図書館および情報ネットワークとの協力により実現されます。将来的にはさらに他の協力機関を組み入れる予定です。各協力機関についてご説明していきたいと思います。

3.1　電子ジャーナル図書館

電子ジャーナル図書館（Die Elektronische Zeitschriftenbibliothek: EZB 〈http://rzblx1uni-regensburg.de/ezeit/ezb.phtml〉）はレーゲンスブルグ大学図書館（Universitätsbibliothek Regensburg）の提供しているサービスの一つで、ドイツのおよそ200の図書館とヨーロッパ各地の図書館ならびにアメリカの図書館が加盟しています。この電子ジャーナル図書館は図書館の自主管理組織で、電子ジャーナルの認可の管理も行っています。

電子ジャーナル図書館では、学術雑誌のフルテキストに素早く、組織的にかつ規格化された方法でアクセスできるサービスを提供しています。2003年4月の時点で確認された雑誌のタイトル数は15,000点近くあり、そのうち約1,800点はネット上でのみ公開されているあらゆる専門分野のオンラインジャーナルでした。このタイトル数は継続的に増加していますが、それは次から次へと電子ジャーナル図書館に加盟する機関があることと、雑誌の電子ジャーナル版が増えつづけていることがあげられるでしょう。

電子ジャーナル図書館の参加機関は、その機関が定期購読している雑誌のフルテキストへのアクセスを利用者に提供しています。このサービスでは、利用者が希望する雑誌は無料で閲覧できるのか、どの機関がこの雑誌の版権を有しているのか、閲覧にあたっての利用条件は何かということが即座にわかるようになっています。当該雑誌の版権を有している機関のパソコンからVascodaを介して電子雑誌図書館にアクセスしますと、直接に、そして無料で電子フルテキストにアクセスできるようになっています。

3.2　情報ネットワーク（Die Informationsverbuende）

情報ネットワークはドイツ連邦教育研究省（BMBF）の助成プログラムにおいて成立し、専門情報センターのサービスを図書館や出版社のサービスと結びつける役割を果たしています。これらのネットワークは、データバンクでの検索を所望のフルテキストへのアクセスと結びつけ、灰色文献を扱う出版社やサーバーとプレプリントサーバーを通して、そのフルテキストを

自由に使えるようにしています。

個々の情報ネットワークの例として、代表的なものですでにオンライン化しているものをご紹介したいと思います。まず経済情報ネットワークに EconDoc（エコンドック：http://www.econdoc.de/_ de/）がありますが、ミュンヘンの経済情報協会／インターネットデータバンク（Gesellschaft für Betriebswirtschaftliche Information/ Internet-Datenbank)、ハンブルク世界経済文書保管所図書館（Hamburgisches Welt-Wirtschafts-Archiv)、ドイツ経済学中央図書館（Deutsche Zentralbibliothek für Wirtschaftswissenschaft, Kiel)、ケルン大学・市立図書館（Universitäts- und Stadtbibliothek, Köln）で組織されています。そして自然科学・科学技術情報ネットワークの GetInfo（ゲットインフォ：http://www.getinfo-doc.de/）ですが、カールスルーエ専門情報センター（FIZ Karlsruhe)、ハノーファー技術情報図書館（TIB Hannover）で組織されています。Infoconnex（インフォコネックス：http://www.ub.uni-erlangen.de/infoconnex/）は教育学、社会学、心理学情報ネットワークで、ドイツ国際教育研究所（Deutsches Institut fuer Internationale Paedagogische Forschung SdoeR, Frankfurt am Main)、社会科学情報センター(Informationszentrum Sozialwissenschaften)、心理学情報・資料センター（Zentrum fuer Psychologische Information und Dokumentation）で構成されております。最後に医学情報ネットワークの MedPilot（メドピロト：http://www.medpilot.de/）ですが、ドイツ医学中央図書館（Deutsche Zentralbibliothek fuer Medizin, Koeln）とドイツ医学文書情報研究所（Deutsches Institut fuer Medizinische Dokumentation und Information, Koeln）で構成されています。みなさまも一度これらの情報ネットワークのサイトをみて下さい。

3.3　仮想専門図書館

仮想専門図書館は、ドイツ学術振興会（ＤＦＧ）の助成により成立しました。仮想専門図書館は、デジタル情報およびフルテキストの地域を越えた文献供給の特別収集分担システムがさらに発展したことを示しています。仮想専門図書館は、それぞれの専門分野にとって重要な情報や資料へのアクセスを容易にし、分散して所蔵されている資料の検索やアクセスを統合しました。

仮想専門図書館では、電子資料と印刷資料を検索することができます。内容が重要であれば、いかなる形態の資料であれ取り上げられます。現在のところほとんどの仮想専門図書館はさまざまな情報源であるデータバンク、インターネットサイト、雑誌などを介して行う検索のために、個々の情報モジュールを提供していますが、それらも将来的にはさらなる統合が可能となるでしょう。2003年夏の時点で23の仮想専門図書館があり、そのうち15館はすでにオンラインとなっています。多数の専門分野にわたる仮想専門図書館があり、それぞれに多種多様なサイトをみることができます。

専門レベルでの統合がますます進む仮想専門図書館および情報ネットワークの個々の専門アクセスポイントが、Vascoda の学際的なサービス提供の基礎となる構成要素となっているのです。

4．Vascodaを支える連携協力とその未来像

Vascodaは、個々のサービス提供においては地方、地域、あるいは国の認可を受けるので制限されますが、世界中どこででも無料で利用できる学術情報のためのポータルです。このポータルのように質の高い情報を供給し、それらを長期間にわたって確保していくためには、多大な作業の手間と資金が必要となってきます。資金節約のためには、膨大な作業を分散させるべきでしょう。すなわち、Vascodaのような大規模なプロジェクトを長期間発展させていくためには、国内外の協力が不可欠なのです。2003年3月、あらゆる共同作業について討議するために、Vascodaはドイツの図書館界と情報分野を代表する重要な人びとに紹介されました。そこでどのようなことが話し合われたのかについてはさらに明確にする必要がありますが、協力関係が望まれるということは全員一致で確認されました。

世界中いたるところで、インフォメーション・スペシャリストと学者などが質の高い情報にいっそう容易にアクセスできるように、専門アクセスポイントとポータルの開発に努力しています。いくつか名前を挙げてみたいと思いますが、資源発見ネットワーク（RDN Resource Discovery Network）、インターネット仮想図書館（WWW Virtual Library）、そしてscience.Govなどは、すでに大々的なサービスを提供しています。これらのポータルの目標としていることや資料提供サービスはVascodaのそれといくつかは一致しますが、異なるものもあります。これらとまたその他のプロジェクトとポータル開発のための知識や経験を相互に交換していくことは、質の高いポータルの構築に重要な貢献となるでしょう。そしてそのような質の高いポータルは、後にはその他の海外のポータルとも結びつけることができるでしょう。時宜をえた国内および国際的な協力により、利用者にとっても最大の利用と快適さを約束する真に広範囲なサービス提供の構築が可能となるのです。

ここまでがVascodaの紹介ですが、最後にsubito（スビト：http://www.subito-doc.com/jp）についても簡単に触れたいと思います。スビトは国際的な図書館の有料文献提供サービスで、図書館だけでなく、個人利用者もサービスが受けられるようになっています（2003年9月から日本の場合は、図書館間の貸出は可能だが、個人利用者は貸出サービスを受けられない）。subitoを通じてヨーロッパ中の図書館にある数百万の雑誌や書籍の所蔵検索を網羅的かつ容易に行なうことができます。subitoもドイツ連邦教育研究省（BMBF）と連邦各州によるイニシアティブの成果です。詳細につきましては上記のホームページを御覧いただき、日本語での紹介をお読みください。将来的にはスビトもVascodaの一部を担う可能性があります。

質疑応答と補足

日本の国立情報学研究所（NII）でも総合的なPortalを作っており、そこでは資料の形態（図書、雑誌、マイクロ資料など）で分けているが、Vascodaでは専門分野を核としていて、そのメリットは何かというご質問ですが、まずドイツの図書館のことを簡単に説明しましょう。ドイツの図書館では、主題・専門を決めて本を収集しています。例えば比較宗教学・神学はテュービンゲン大学図書館、政治・平和研究はハンブルク大学図書館、哲学はエアランゲン・ニュルンベルク大学図書館、心理学はザールブリュッケン大学図書館、英語・英文学はゲッティンゲ

ン大学図書館等などがあります（ドイツ図書館年鑑：2001/2002 *Jahrbuch der Deutschen Bibliotheken* より）。その背景を簡単に説明すると、戦後（西）ドイツでは戦争で欠落した資料を補充するために、いくつかの学術図書館（国立・大学図書館）に特定の分野を指定し、各図書館が指定された分野の文献を集中的・網羅的に収集するという分担収集の方法を取り入れたのです。「特別収集分担計画」（Sondersammelgebietsplan）といいます。この他にも、フォルクスヴァーゲン財団の財政援助のもと「ドイツ刊本収集」計画（Sammlung Deutscher Drucke）というのもありました。つまり図書館に分担収集をさせて、蔵書に専門分野を持たせているのです。それゆえ Portal を構成する各協力機関は専門分野を持つ図書館となっているわけです。Vascoda は一箇所で必要な資料がそろうワン・ストップ・ショップを目標としていますが、それは専門で分けることによって可能となるのです。それはなぜかというと利用者は資料を探すとき、図書を探しているとか雑誌を探しているとか、マイクロ資料がいいとか電子資料がいいとかという検索の仕方はせず、それよりもまず専門分野を決めてから検索に入るでしょう。専門別に検索を始め、実際に資料が検索されて初めて、図書や雑誌、電子資料などの資料形態を選んでいくと思います。Vascoda でも資料の形態を選べるようになっていますが、それは専門分野別での検索が済んだ後となっています。

本稿は2003年６月19日に京都大学附属図書館で行われた講演を元にしている。なお、この講演会は、京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座、東京ドイツ文化センター、京都ドイツ文化センター、京都大学附属図書館、日本図書館研究会、近畿地区国公立図書館協議会の共催で開かれ、約40名が参加した。